

1. 第三者評価結果概要表

作成日 平成21年8月21日

【評価実施概要】

事業所番号	2873400762		
法人名	社会福祉法人宝寿会		
事業所名	グループホームゆうゆう		
所在地	神崎郡神河町福本1241-3 (電話) 0792-32-3333		
評価機関名	社会福祉法人 兵庫県社会福祉協議会		
所在地	神戸市中央区坂口通2-1-18		
訪問調査日	平成21年6月25日	評価確定日	平成21年8月21日

【第三者評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは、神崎郡神河町の国道312号線沿いにあり、併設施設である特別養護老人ホームと同一敷地内の小高い山の麓に面しており、自然環境に恵まれた位置にある。ホームは明るく清潔な印象であり、職員と利用者が落ち着いてゆったりと時を過ごしているという感じである。また、食事を楽しむことのできる支援には特筆すべきものがあり、食材の買い出し、調理の下処理など利用者と職員が一体となって取り組んでいる。献立は、手作りの季節感のあるものとなっており、1階と2階のユニットの献立の内容が違うなど、バラエティに富んだものとなっているのは特徴的である。

【重点項目への取組状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:第三者4)</p> <p>前回の要改善事項について、町との連携では、各種相談を持ちかけ、意見交換を実施するなど改善が進んでいる。また、他のグループホーム利用者との交流を同業種の連絡会で実施するなど、改善に向けての取り組みが進んでいる。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:第三者4)</p> <p>自己評価は、職員全員が評価項目を分担して書き込み、それを持ち寄って協議し、その結果を管理者がまとめた。作成の経緯から、管理者・職員は評価の意義をよく理解している。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:第三者4,5,6)</p> <p>幅広く機関・地域代表の参加を得て、昨年度は運営推進会議を3回開催した。事業の報告を中心に意見交換を実施しているが、第三者評価で提起された要改善事項について、運営推進会議での意見交換によるサービスの質向上に向けたさらなる取り組みに期待したい。また、開催頻度についても2カ月に1回の開催が望まれる。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:第三者7,8)</p> <p>職員が家族のホーム訪問時に、その意見、苦情によく耳を傾けるとともに運営推進会議や行事のときにも、家族の意見の把握に努めている。なお、今後、家族が参加できる行事を増やし、その開催時に意見・要望を汲み上げる機会をつくる予定があるので、その取り組みに期待したい。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:第三者3)</p> <p>自治会には加入していないが、地域の清掃活動や秋祭りに参加するなど、地域との交流に努めている。また、地域ボランティアによる昔なつかしい蓄音機による音楽鑑賞、活動写真による映画鑑賞、その他クラブ活動及び地域の文化祭への利用者の作品の出品など、地域との連携には日常的に努めている。</p>

【情報提供票より】(21年6月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成17年10月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	15 人	常勤 12人, 非常勤 3人, 常勤換算	13.75人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨	造り
	2階建ての	1~2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	1F:35,000円,2F:40,000円	その他の経費(月額)	20,000 円	
敷金	有(円)	(無)		
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円)	有りの場合償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	150 円	昼食	300 円
	夕食	450 円	おやつ	100 円
	または1日当たり		1,000 円	

(4) 利用者の概要(6月1日現在)

利用者人数	18 名	男性	2 名	女性	16 名
要介護1	7 名	要介護2	5 名		
要介護3	4 名	要介護4	2 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 88 歳	最低	65 歳	最高	97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	公立神崎総合病院、藤川医院
---------	---------------

2. 第三者評価報告書

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設当初は、法人の理念をホームとしての理念として掲げていたが、職員間で話し合い、地域との連携を強調した独自の理念を新たに作成している。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員間の話し合いで作成した経過もあり、管理者と職員は理念を共有しているが、さらにミーティング、職員会議等で内容についての周知を図っている。また、玄関・ダイルーム等、ホーム内の要所々に理念を掲示し、職員のみならず家族及び地域住民にも周知している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会には加入していないが、地域の清掃活動及び秋祭りに参加するなど、地域との交流に努めている。また、地域のボランティアによる昔なつかしい蓄音機による音楽鑑賞、活動写真による映画鑑賞、その他習字教室などの各種クラブ活動により、交流を図っている。		
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は、職員全員が項目を分担して書き込み、それを持ち寄って協議し、その結果を管理者がまとめた。第三者評価の要改善事項については、市町への働きかけ、他グループホーム利用者との交流の実施など、少しずつではあるが、結果が出始めている。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>幅広く各機関及び地域代表の参加を得て、昨年度は3回運営推進会議を開催した。事業の報告を中心に意見交換を実施しているが、サービスの質向上に向けた取り組みは今後の課題である。</p>		<p>第三者評価で提起された要改善事項について、参加者の意見交換によるサービスの質向上に向けたさらなる取り組みが期待される。また、開催頻度についても2ヵ月に1回の開催が望まれる。</p>
6	9	<p>市町との連携</p> <p>事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>心身の状態などから入居に適するかなどの利用相談、介護保険制度の加算に関する相談、地域サービス全般に係る意見及び情報交換など、町の担当者とは緊密な連携に努めている。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	<p>入居者の心身の状態及びホームでの生活の様子など月1回、書面で報告するとともに、家族のホーム訪問時にも詳細な状況をお知らせしている。また、預かり金の管理状況についても、報告書に添付して送付している。</p>		<p>今後は、生活の様子を伝える写真など視覚に訴えるものを作成する計画があるので、その取り組みに期待したい。</p>
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>職員が、家族のホーム訪問時に、その意見に耳を傾けることに努めるとともに、運営推進会議や一部行事のときにも、家族等の意見の把握に努めている。</p>		<p>家族等意見の運営への反映に資するために、家族が参加できる行事を増やし、その開催時に意見・要望を把握する機会をつくる予定があるので、その取り組みに期待したい。</p>
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>昨年度、併設特別養護老人ホームからの異動1名、非常勤職員2名の採用があったが、異動職員も含め新しく採用する時には棟のリーダーが3日間付ききりで指導にあたるなど、利用者との円滑な関係が築けるよう努めている。</p>		


第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は、月1回開催される介護技術、看取りケア、リハビリテーションなどを内容とする法人内研修に毎回参加するとともに、地域のケアステーションが主催するケアに関する学習会にも多数参加している。		外部研修・内部研修ともにしっかりと取り組まれているが、職員の能力に応じた計画的な研修計画を策定することが望まれる。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	町内にある3つのグループホームが2ヵ月に1回、連絡会を開催し、第三者評価調査、事例検討などについての情報交換、意見交換を実施している。また、連絡会の機会をとらえて利用者間の交流も実施している。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前の見学とともに、利用者との交流を通じてホームへの理解を深めてもらうとともに、申込者の家庭及び施設を訪問して状況を把握するなど、馴染みながらの円滑な利用ができるよう支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	利用者と共に過ごし支えあう関係 職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている	四季折々の食材の調理方法、来客時のお茶の出し方など利用者から教わることも多く、また、食事時の配膳、片付けなど利用者から手伝ってもらうことも日常的にあり、相互に学び、支えあう関係の構築に努めている。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>日常の会話や何気ない一言の中から意向を把握する、また、家族からも入居前の家庭での暮らし方の様子を聞くことにより、利用者の希望や思いの把握に努めている。</p>		
2. より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>利用者や家族の希望、意見を取り入れながら可能な限り具体的な目標を掲げた計画案をもとに、職員の意見も反映した介護計画を作成している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>原則として3ヵ月毎に見直しを行うとともに、職員及び家族と協議しながら、利用者の心身の状況の変化に即した見直しも実施している。</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>利用者や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>利用者を対象に、以前入居していた施設および故郷の墓参りなどの外出支援を実施しているが、地域で安心して暮らし続けるための多様な支援については今後の課題である。</p>		<p>今後、利用者のみならず地域で生活する高齢者を対象とした多様なサービスの実施についての検討が望まれる。</p>

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 利用者や家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ほとんどの利用者が入居前から継続している、かかりつけ医や協力病院（神崎総合病院）に受診している。通院の支援については、原則として家族が付き添い、緊急時及び家族が行けない時は、職員が付き添っている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	3年前、家族の希望を踏まえホームで終末期を迎えた利用者の事例があり、また、寝たきりに近い状態になり介護施設に移った事例もあるが、その際は全員で方針を共有するまでには至らなかった。		今後は、これまでの重度化及び終末期を迎え対応した事例を参考に、統一した方針の共有を目標に、利用者・家族・職員の間で話し合う機会を持つことを期待したい。
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の誇りを傷つけないよう、特に職員の言動については注意し、法人の接遇研修にも積極的に参加している。個人情報の記録については、鍵のかかる保管庫に保管するとともに、職員には守秘義務について誓約書により、その遵守について徹底している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	買い物、散歩など外出希望の多い利用者には可能な限り、その希望にそうようになっている。また、朝起きにくい利用者には食事時間をずらせて部屋で休息していただくなど、その人のペースにそった支援を心がけている。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節感があり、利用者が希望する献立を可能な限り取り入れ、1Fと2Fが異なるバラエティに富んだ献立になっている。また、食材の買い出し、下処理など職員と利用者が一体となって調理に取り組むとともに、できあがった食事は一緒に楽しみながら食べている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者は、午後2時から4時の間で、ほぼ隔日の入浴となっているが、午前中に入浴する人、あるいは毎日入浴する人もいるなど可能な限り、個別のニーズに応じた弾力的な対応をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	下処理、配膳、片付けなどの調理業務、干す、たたむ、仕分けるなどの洗濯業務及び共用部分の清掃、浴衣を縫って作品展に出品するなど、それぞれ利用者の心身の状態、得意分野などに応じて役割を果たしてもらうことにより、やりがいや生きがいにつながる支援をしている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者一人ひとりの希望を踏まえて、併設施設の訪問、ホーム周辺の散歩、買い物、喫茶、誕生日外食など、可能な限り戸外に出て気分転換が図れるような支援に努めている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	2階建てホームの建物内は、どの部屋にも施錠がなく自由に移動できるが、ホームの玄関は暗証番号の操作が可能でなければ、外に出られないようになっている。		利用者の徘徊が以前あり、それ以降施錠するようになった。日中鍵をかけることが常態化しているので、今後、職員の見守りや連携などの工夫により鍵をかけないケアに向けて検討していくことが望まれる。

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	併設施設と合同で年2回、消防署の参加を得て、夜間を想定した消防・避難訓練を実施している。専門家による点検の他、毎月、職員による防災設備の点検を実施するとともに、運営推進会議を通じて緊急時の地域への協力を呼びかけている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	食事及び水分摂取量については、日常生活動作記録票に記録している。栄養バランスについても、その確保に努めているが、専門家による指導は受けていない。		栄養バランスに偏りがないかについて、実際に調理するホームの職員が気をつけてはいるが、併設施設の栄養士にチェックを依頼するなどの工夫が望まれる。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	玄関など要所々に生花が飾られ、また書の掛け軸が架けられていたり落ち着いた雰囲気になっている。さらに、リビングには、コタツのある畳のスペースを中心に、ゆったりくつろげる雰囲気のテーブルとイス、そしてソファ、レトロな蓄音機など居心地よく過ごせる共用空間づくりがなされている。		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	利用者や家族の希望により家具や寝具等を持ち込んでいる。また、身体の状態により居室に畳を敷くなど過ごしやすい空間づくりには努めているが、家具が少ない居室空間となっている。		くつろげる雰囲気となっている共用空間で実現しているような居心地の良い居室空間作りを引き続き期待したい。

 は、重点項目。